

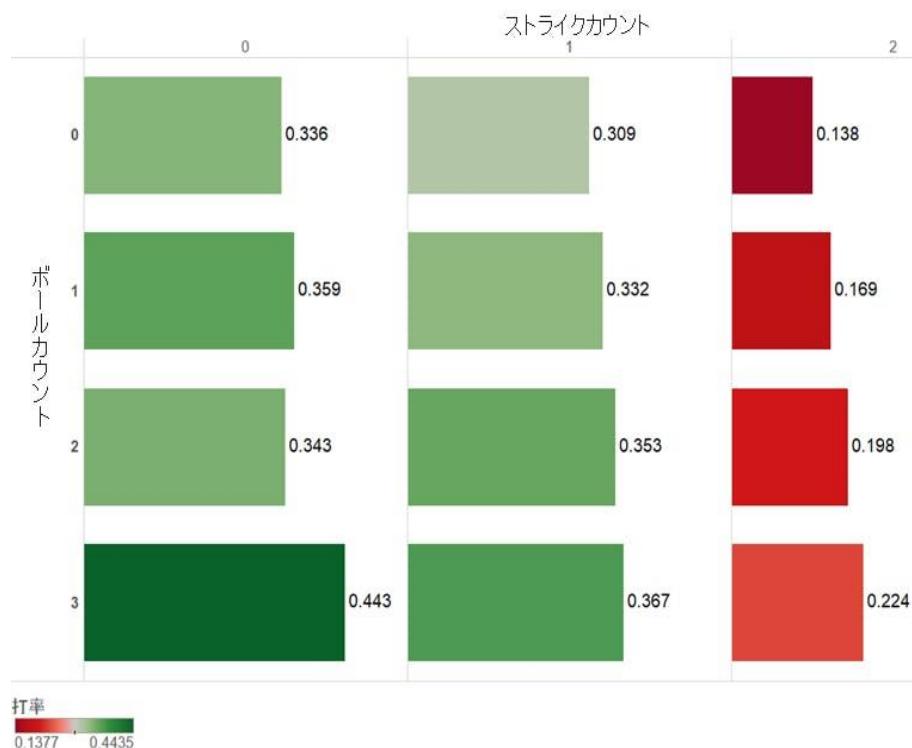
～全員野球・全力野球～

大阪市立西中学校 野球部通信 休校中臨時号(2020.5)

学校ホームページでの野球部の振り返りでも記しましたが、西中野球部の現チームは「自分のプレーに責任を持つ」「考えらえるチーム」を目指しました。

自分のプレーに責任を持つというのは、「なぜそのプレーをした?」と聞かれたときに、自分で答えることができるかどうかです。状況を把握し、自分で考えて、意思を持ってプレーすれば、おそらく何を聞かれても答えられるでしょう。

下の表は、過去のプロ野球におけるカウント別の打率を表したものです。
(プロ野球と中学野球では数字は少し異なると思いますが…)



問題

この表から、どんなことを読み取り、どんなことを考えましたか？
投手目線と打者目線で、それぞれの観点から考えましょう。

(なお、カウントが0-3になれば、その後7割は四球になるとされています。)

学校が始まつたら、野球部員一人ひとりに聞こうと思います。

明確な正解はありません。(こう思ってほしいというのはありますか…)

自分で考えることが大切ですね。

ホームページにあげた1つ目の野球部通信にも書きましたが、このような事態になってから、たくさんのスポーツ選手がSNSなどを通じて、学生向けにコメントを発信しています。

「野球人生は高校で終わりじゃない、先を見据えて前向きに捉えてほしい」というものもありました。自分は中学野球の指導者です。過去にバリバリの有望選手だったり、甲子園に出たり、プロ野球選手だったというようなエリートではありません。それが理由かはわかりませんが、この言葉に共感することはできませんでした。日本全国、中学で野球人生を終える生徒は多くいます。

そうなると全力で勝ちを目指す野球は7月までです。

だから「少しでも試合をやらせてあげたい。」その気持ちだけです。

こういう状況だから今年は仕方ない…。それはわかっています。

でも「中学野球ができなくても、高校とか次のステージで頑張れ！」とは絶対に言えません。私には来年があっても、生徒達に来年はありませんから。

そのためには大人は、しっかり手を洗います。外出を自粛して、人との接触を減らします。感染しない、感染させない。気遣いをして感染予防につとめます。

できることは限られています。でも、限られた「できること」をしっかりやり切ろうと思います。